

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000562		
法人名	有限会社すいせん		
事業所名	グループホームすいせん川南	ユニット名	2棟
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南19415-1		
自己評価作成日	令和元年12月16日	評価結果市町村受理日	令和2年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成32年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームすいせんの基本理念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者様に寄り添いながら、ゆったりと穏やかに過ごして頂きます。 2. その人らしさを尊重し、居心地の良い環境の中で、自信や生き甲斐を取り戻して頂けるよう支援致します。 3. 笑顔の絶えないグループホームの実現を目指します。 <p>基本理念に沿って、利用者様に寄り添いながら、一人ひとりの想いを丁寧に傾聴し、ゆっくりと丁寧な優しい言葉で接し、楽しく穏やかな生活が送れるよう、日々の介護に努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>代表者は、職員の意欲向上につながるよう職員間の関係構築を図り、また、資格取得を支援している。地域の事業に参加し交流したり、居心地の良い環境づくりに努めるなど、ホームの基本理念の実現に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関やリビング、事務所等、目につく所に掲示しており、常に職員の意識づけを行っている		毎月の定例会や研修復命で理念の実現に向けた介護の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域公民館で行われている地域ふれあい事業に参加したり、月1回の傾聴ボランティアの方々との交流、幼稚園児の慰問、小学校の田植え見学交流等、日常的に交流している		公民館のふれあい事業参加や、傾聴ボランティアに来所してもらったり、買い物先の地域住民や隣接する学校の児童と交流するなど地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生や高校生の職場体験の受け入れを行っている。また、幼稚園児の発表の場を設けている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を行い、民生委員や地区の班長、利用者様のご家族に出席していただき、意見・アドバイスをもらいサービス向上に努めている		運営推進会議で出た意見をサービスに生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき現状報告を行っている。また、分からない事は、担当者が密に連絡を取り、相談している		入居者状況の報告など、町や、必要時には県に相談したり指導を受けるなど関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や窓の施錠は日中していない。毎月、定例会にて身体拘束の実態把握や廃止に向けた検討を行っている。身体拘束に関するマニュアルを職員の目の届く所に置いている		職員全員が施錠やスピーチロックを含め、身体拘束の弊害について理解し拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職場内研修を行い、外部研修に参加し定例会等で報告し共有している。正しい知識と理解を持ち虐待が見過ごされないよう努力している			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の一部に関しては、権利擁護の外部研修へ参加をしている。現在、成人後見制度を必要としている対象者はいないが、必要があれば相談に応じている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所時に契約書や重要事項説明書を示しながら口頭で説明し、理解・納得をいただいた上で署名、捺印をいただいている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	病院受診や面会時には、ご家族が気軽に話せる雰囲気づくりを心掛けている。玄関には意見箱を設置している	受診困難時のサポート体制、紙オムツ使用、外食など家族の意見が出しやすいよう工夫し、それらの意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会で自由に意見交換を行っている。個人的に相談・意見があった時は、その都度対応し、運営に反映できるよう努めている	職員が気軽に意見を出せる雰囲気づくりに努め、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見には耳を傾け、良い事は実践につなげるよう努めている。職員の希望にそった休暇が取れている。有給休暇についても職員が自由に消化できている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー研修や実践者研修に積極的に参加している。資格のない職員には、初任者研修を斡旋し働きながらでも資格取得できる機会を確保している			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の研修会へ参加している。また、研修で知り合った同業者と交流を深めサービスの質の向上を目指している			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人と面会、可能な方は施設見学をしていただいている。ご本人の要望・想いを傾聴し、否定せず相手を受け入れ、安心していただけるよう努力している			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の生活歴や家での様子・状態、ご家族の要望を伺っている。相談しやすい関係を築けるよう努力している			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や事前調査の時に、ご本人やご家族と話し合い、状況に応じたサービス提供に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したりたたんだり、食器洗いなど、ご本人の出来る事を一緒に行い、感謝の言葉を述べている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の面会や病院受診時に現状報告をし情報交換をしている。遠く離れたご家族にも施設での生活状況を記載したおたよりを定期的に発行している			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、居室でゆっくりとお茶を飲みながら会話を楽しんでもらっている。また、地元のスーパーの買い物に一緒に行ったり、初詣や花火大会へ出かけている	家族の支援を受けて外出や外泊をしたり、職員と馴染みのスーパーに買い物、花火大会や初詣に外出している。家族や知人との電話や年賀状を通じた関係継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で出来る体操やレクリエーションを取り入れている。利用者様同士のトラブルや孤立が無いように、職員が間に入り対応している			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも外部で会った時は、近況を聞かせてもらっている。また、何かあった時は、いつでもご相談くださいとお伝えしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書の見直し時や日常の会話の中から利用者様の希望や意向を聞き出し、職員同士で情報共有している。また意思疎通が困難な方は、ご家族より情報を得ている	本人及び家族への聞き取りや、本人の表情や言動を観察して思いや意向の把握に努めている。情報を職員間で共有し実践に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使いなれた物を施設でも使用していただいている。利用者様の生活歴・趣味等をご本人、ご家族からも情報収集し、職員同士で共有し把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動を観察し、介護記録や申し送りノートを活用しながら現状把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回、担当者がモニタリングを行っている。介護記録や日々の会話、ご家族の面会時に情報を収集し、計画作成担当者と話し合いながら介護計画書を作成している	担当職員が中心になり利用者の状況や思いを話し合い、利用者や家族の意向を組み入れた本人本位の計画を作成している。モニタリングを毎月実施し、必要な見直しや計画変更を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の発言や行動を介護記録に残したり、申し送りノートを活用している。状態に変化があった時は、別紙記録に詳細を記入し、職員間で情報共有している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理容や歯科の往診、ガイドヘルパー利用や介護タクシー利用等、ニーズに応じた支援を臨機応変に行っている			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館での地域ふれあい事業や地域の花火大会に参加できるよう支援している。また、月に1回の傾聴ボランティアの方々とのお話を楽しまれている			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人とご家族とのかかりつけ医を決めている。定期受診時は、担当者が情報提供書を記載し医師に報告し情報共有している。基本、ご家族に病院受診対応をしていただいている、困難な場合ガイドヘルパーを利用。車の乗り降りが困難な方は、ご家族の希望で福祉タクシーを利用されている	入居前からのかかりつけ医を継続し、救急時は協力医受診も可能としている。定期受診は家族の同行によるが、職員同行支援も制度化している。認知症専門受診時は職員も同行し情報提供し、受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との連携がある。利用者様の状態や気づきを報告、相談し情報共有している。緊急時も指示を仰ぎ適切な処置が出来るように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、情報提供書、お薬情報を提供している。入院中は面会をし日々の状況把握に努めている。また、早期の退院を目指しご家族や病院関係者と情報交換をしている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のあり方について確認しているが、ご本人の心身の状態を見守りつつご家族の気持ちの変化もある事から、介護計画書更新の際や容態の変化時は本人を含めご家族の終末期における意向を確認している	入居時に説明し方針を共有しているが、状態や意向の変化に合わせて対応している。看取りについては、医師・看護師と連携し、対応に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間の事故対応マニュアルを職員が常に目にする場所に置いてある。ただ、応急手当等の定期的訓練を受ける機会がなかなか取れないのが現状である			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署員立ち会いの下、昼間、夜間を想定した防災訓練を実施している。防災訓練を運営推進会議の時に実施し、地域の方にも見学していただいた	消防署の指導で防災(火災)訓練を実施し、利用者も消火器の取扱いや避難行動を体験している。防災頭巾やヘルメットを常備し避難場所を決め非常用食品を備蓄している。運営推進委員は見学しているが地域との協力体制	ホームは2ユニットであり、職員だけでの防災体制は十分ではない。平日や夜間など地域の特性を考慮した地域住民との協力体制の構築に期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に利用者様が言うことは否定せず、親しみからなれなれしい言葉づかいをしないよう気を付け、その人らしさを尊重した対応ができるよう留意している。申し送りの際は、プライバシーに配慮しイニシャルで行っている		利用者を人生の先輩として敬意をもって言葉かけをしている。排せつ誘導には耳元で声かけをするよう配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話の中から思いを汲み取り、職員間で相談して実現できるよう支援している。自己決定ができない場合は、選択肢を増やし説明した上で自己決定を促している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日程はあるが、その日の体調、状況に応じて対応している。出来る限りご本人のペースに合わせて希望を取り入れ穏やかな日々が送れるよう支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理容にて整髪をおこなっている。毎日の口腔ケア、髭そりなど出来る限りご自身でしていただき、身だしなみが保持できるよう支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は、職員も同じ食事を一緒に食べている。調理場や献立表が見えるように工夫している。また、誕生日等特別な日は利用者様の好きな食べ物を事前に把握し提供している		利用者と職員と一緒に食事し片づけたり、また利用者の好みの献立を取り入れるなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を都度記録し一人ひとりの状態を職員全員が把握している。また、月1回体重測定を行い、体調管理に留意している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施、就寝前には義歯を洗浄液につける等、清潔保持に努めている。歯科医院との連携もある			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを介護記録等から把握しトイレ誘導を行う事で失敗を防いでいる。トイレ内で戸惑いのある方は、側に付き添いプライバシーに配慮しながら支援している	排泄パターンを把握し、トイレへ誘導したり、夜間はポータブルトイレを使用するなど、排泄の自立に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い、天気の良い日は庭で散歩をしたりなるべく体を動かしていただいている。医療機関と連携を図り、緩下剤の調整を行っている			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本入浴日は決まっているが体調に応じて対応している。ゆっくりと湯舟につかっただけのよう一人ひとりの好みの温度調整を行っている。湯船につからない方に関しては、足浴をし身体にお湯をかけ少しでも温まっていたけよう努力している	週3回の入浴日を設けている。順番や入浴剤、音楽など、入浴を楽しむことができるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や様子を見ていつでも居室で休めるようにしている。季節に応じエアコン設定や布団の調整をし安眠できるよう配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬表を作成している。定期薬の変更等があった場合は、受診ノートや申し送りノートで情報共有し、服薬後の変化にも注意している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや書き物等、ご本人ができる事は自身で行っていただいている。そのため「これは私の仕事よ」と自身の役割を見出すような言葉もよく聞かれている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族の協力により、カラオケや墓参り等の外出や外泊も行っている。買い物同行や、ご家族も参加される外食支援、初詣、花見ドライブ等戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力による外出の他に、買い物や散歩、外食、レクリエーション、ドライブなど外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の金銭管理は難しいため、ご家族様管理としている。買い物同行時は、お金に触れることができるよう支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望されれば、ご家族に電話をかけている。お正月には、年賀状にご本人のコメントを書いてもらい、担当スタッフからも一言コメントを入れ交流している			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保ち気持ち良い空間づくりを心がけている。玄関通路に花を植えリビング、壁面に季節ごとの飾り付けをし、時に生花を活けたりと季節感を大切にしたり、座席の変更等居心地良く過ごせるよう工夫をしている	ホーム内は空調管理され、過ごしやすい環境に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごせる時間を設けたり、座席の配置を工夫したりと落ち着いた空間づくりを心がけている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が書いた絵や思い出の写真を壁に掲示している。また、入所時にアルバムや人形など思い入れのあるものを持ち込んでいただいている	使い慣れた家具、家族の写真など持ち込み、本人が落ち着いて過ごせるよう配慮している。また、危険の無いよう家具やベッドの配置を本人、家族と相談しながら工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や玄関、要所に手すりを設置し周辺には障害物になるような物は置かないようにしている。居室には各自の表札を設置している。トイレの場所が分かるように大きな文字で示している			